



61

財團 協調會福岡出張所

最近の織機内部状態と刷新運動の概要

織機の近勢

昭和五年一月従来の共同研究会（大正十年六月組伍長研究会の創立に始まる）の権威なる主義綱領を論争的に改め茲に日本織機労働組合聯合會が組織されたのであるが、爾來織機の綱領は多年共同研究会の主義綱領に依つて培はれた多數の幹部並に一般組合員の組織に適合せず、一万を越した其の組合員数は月に減少し最近に至りては漸やく四千内外と稱せられ甚しき衰進を示してゐるのである。即ち今回の年次大會に於て集まる者三十八支部中僅か半数の二十支部に過ぎざるが如き状態である。

刷新運動

かくの如き状態に陥りたる織機内部に於ては、昔日の共同研究会時代の盛時を回顧追憶の情に激へると共に一面現状の如く衰

12

1

財團 協調會福岡出張所

微したる最大原因を以つて一共產主義者の策謀に成りたる織機現在の指導精神（綱領）の不適當なるに因るものとなしてゐたのである。

時過々今夏織機所にタービン機付の爲め入帳市に滞在したる石川島造船所野野一氏の日本主義労働運動の主張に共鳴する者多し、爾來一部有志は組合刷新運動を起し去る九月十八日夜總會幹部中二〇余名参加し協定の結果、共同研究会時代の主義綱領に如ふるに日本主義労働運動の主義を取り替へられて新綱領を決定し之を以て織機労働組合の改正を刷新委員會の手に依り要求するに至つたのである。之れが爲織機に於ては中央委員會を組織すること敷則にして遂に其の要求の大体は之を容認することゝなつたのである。十一月十三日の織機年次大會（別報報告書参照）に於て一應看板の塗り替へをなしたので表面は刷新派の要求が達せられて本運動は終結したるが如き状態である。

2